

令和6年度 第3回社会教育委員会会議録

日 時 令和7年3月18日（火）10時00分から12時15分

場 所 市役所4階 入札室大

委 員 委 員 長	松尾 弥生
副委員長	高瀬 由美
委 員	田中 亨胤
委 員	谷勝 公代
委 員	中村 和子
委 員	河合 新一
委 員	難波 利克
富田小学校長	菅野 裕之
事務局 教育長	菅野 恭介
教育部長	伊藤 勝
生涯学習課 課長	北島 悦乃
生涯学習課 課長補佐	増田 浩和
生涯学習課 職員	藤井 優佳

1. 開会（事務局）

2. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

昨年、開催された兵庫県社会教育研究大会では、すべての分科会がコミュニティ・スクールをテーマに選ばれていました。それだけ、各市町、社会教育の中でコミュニティ・スクールに取り組んでいらっしゃるのかなと思いました。

私が参加した分科会は、多可町の実践発表で、どのように地域の力を上手に活かして、どのように地域と手を結んで活動をされているかというお話を伺いました。加西市ではどのような取組をされているかというお話を実際に運営されている方々から伺えたらと思い、この度は校長先生にお願いしました。よろしく願いいたします。

3. 教育長あいさつ（教育長）

～教育長あいさつ～

4. 議題（事務局）

（1）加西市立富田小学校 学校運営協議会の取組

～富田小学校 校長より説明・質疑応答～

（委員 A）

いろいろな取組をされているのですが、子どもや教師にとってそれは+ α の時間や負担感というのはどうですか。

（校長）

学校に来ていただいている縄跳びや寄せ植えはあった方がいいと思います。子どもたちの楽しみになって、他の活動も頑張っています。

（委員 A）

小学校の場合、総合という科目がありますが、そういうところで学校教育としての評価を組み込んでいらっしゃるのでしょうか。

（校長）

カウントとしては基本的に総合ですが、調理なんかで来ていただくときは家庭科で入れています。学校のニーズや規模によると思います。

（委員 A）

学習指導要領はもう少し柔軟にして各学校が自由裁量でできるようにしてもいいのではないかと思います。そうすれば、+ α のプログラムではなく、学校運営協議会の取組が学びの王道に位置付くのかなと思います。

社会教育と学校教育は一体ではないですが、重なっている部分はすごくあると思います。

（委員 C）

子どもたちがどれくらい企画に関わっているのか興味があります。

私が校長をしているとき、子どもが主体者になるということがすごく大事だと感じました。私は、生涯学習の中で「当事者」という言葉がすごく大事だと思っています。大人は子どもにいろいろ準備をしてあげたいと思うのですが、時間はかかっても最初から子どもにさせる方が効果はあったと思います。ですので、子どもを育てる、地域を育てるという意味では、主体者にしないといけないということを実感として持っています。

同時に、先生についても土日の仕事は負担がありますが、何とか先生と地域を繋いでいくことを視野に入れたいと思います。難しいのは、保護者からの先生の評価にも繋がることです。

私は地域と学校が一体化したところで校長をしていましたので、地域の方にはいつでも学校に来てくださいと言っていました。落ち着きのない子どもの横に座ってもらったり給食の時間だけ手伝ってもらったりしていました。特に低学年に関しては地域の方に本当に助けてもらっていました。そういう取組が子どもの心を安定させたと思っています。

中学校では難しいというのもわかるのですが、思春期こそ大事だと思います。何とか上手くいったらいいなと思っています。

(委員 A)

いろいろな人が出会うと緩やかな憧れのモデリングができるのです。大阪府堺市の例ですが、ホテルを育てている不愛想なおじさんがいて、学校がその人と子どもと繋ぐことで、子どもたちが知らない地域の人に学びに行くというような話がありました。距離を持つと他人は他人のままですが、距離を縮めていくとお互いの良さや持ち味を知って、憧れになっていきます。育ち合う繋がりのおかげを提供するのは、コミュニティ・スクールのような気がしています。

無関係の人と繋がると、街中で出会うと挨拶をして、他人が他人ではなくなっていく。そういうところに着地点を持って行くと素晴らしい取組になっていくのではないかと思います。

(委員 B)

富田地区は立地等の条件がすごく良いのだと思います。メダカやふくろうを育てている人がいますし、私もアゲハ蝶を育てています。

学校には先生方やPTAの方々の反応を見ながら入っています。

以前はトランポ・ロビックスをしに行かせてもらっていました。今では学校からの要望で縄跳びをしに行かせてもらっています。子ども達の様子を見てみると、プロの講師に教わると跳べるようになっていきますし、休み時間でジャンプ台を使って鍛えたらいいということを感じ取っています。また、講師の方には対象の学年や学校の方針を伝えて内容を話し合ったうえで入っていただいています。

(委員 A)

学校の管理職や教員が社会教育の感覚を持っていると意外と上手くいく部分があります。たとえば、トライやるウィークで地域に出ていくときや中学校の家庭科で子どもたちが地域の保育所や幼稚園に行くとき、地域と学校を繋ぐのは先生ですので、社会教育の感覚をもってやっていくことが大事だと思います。

学習指導要領は窮屈なものにするのではなくて、緩やかにしていくことも大事なのかなと思います。

(委員 D)

私もコミュニティ・スクールの会長をさせてもらっているのですが、お話を聞かせていただいて勉強になりました。

先生もPTAも子どもたちが中心になるので、連携のきっかけ作りをしていきたいと考えています。子どもたちが何をやりたいかということもありますが、先生方の負担もありますので、以前もお話しましたように先生方との懇談会をしています。以前と比べて少しずつ良くなってきているのかなと思います。

公民館で書道やミシン、料理の関係の活動をされている方に声を掛ければ、快く活動に来てくださいます。そういうことで学校の先生も助かっているということがありますので、これからもきっかけ作りをやっていこうと思っています。今度は自転車教室なんかを地域の方々に手伝ってもらおうと考えています。

(委員 C)

地域が助けてくださるのは、学校は本当に助かると思います。

家庭科については、先生方は本で勉強しているので実際には出来ない方も多いで

す。規模が小さい学校ほど専門の家庭科の先生はいないので、そういうときに地域の方が来てくださると本当に助かっていました。

(委員 D)

私も授業を見させてもらいましたが、先生 1 人ではなかなか対応しきれないですよ。

(委員 E)

中学校の立場で話をさせてもらいますが、小学校と中学校は別々のものではないです。その感覚が難しいと思います。

小学校では地域の方にいろいろと手伝っていただいています。中学校でも同じことをするのかというところではないです。しかし、小学校で築き上げた地域との繋がりは中学生になってゼロにはなっているわけではありません。地域と関りを持ったことはベースとして中学生の心にはちゃんと残っていると思っています。

ご存知のように中学生はトライやるウィークという行事があります。本校の場合は地域の事業所やこども園で受け入れていただいています。1 週間お邪魔することになりますので、そこでの関りは大事な時間になりますし、親御さんも好意的にとらえてくださっています。また、善防中学校は善防公民館でもトライやるウィークの受け入れをしてくださっていますので、その繋がりで公民館まつりにも参画しています。

コミュニティ・スクールは中学校にもありますが、小学校に比べると中学校は敷居が高い傾向にありますので、出来るだけ行事に足を運んでいただくように声をかけています。

小学校の地域との繋がりは中学校でも確かに感じる部分があります。生徒に地域へ貢献したいかというアンケートを取るとその結果にも反映されています。ただ、中学校はカリキュラムもたくさんあり、時間が作れないというのでも確かなことです。

(委員長)

私も善防公民館まつりに行かせてもらいましたが、本当に楽しそうに地域の方と一緒にお店番をされていました。

(委員 E)

本校だけではなく、他の中学校でも公民館活動とは何らかの形で繋がりがあっていると思います。

(副委員長)

公民館まつりに中学生が入っていると非常に賑やかになり、おまつりという感じが出ます。子どもたちが率先して動いているのが素晴らしいと思います。

私は狂言の団体の代表をしていて、中学校に上がる子どもにこれからどうするかを聞くと、小学校の子どもたちが心配だから残りますと言ってくれます。地域の子どもの意識が良いことだと思っています。

地域の行事に参加する機会があることは良いことだと思います。地域のまつりは年代ごとに何となく役割が決まっています。学校で地域の行事に参加することで、何となく地域に入っていくものだという空気感が出来ていくのだろうと思っています。

5. 報告事項

(1) 令和7年度「公民館への誘い」について

(2) 令和7年度加西市社会教育委員の会会議について

～事務局より説明～

6. 閉会（副委員長）

ありがとうございました。

地域が子どもを中心に繋がっていくことが大事なのだろうと思います。社会の生活スタイルが変わってきて、個人で動く範囲が広がってきている中で、子どもが核になって地域が目を向けていくことで、動きやすくなるのだろうと思っています。子どもたちに「ありがとう」と言ってもらえると大人も嬉しいと思います。

公民館やボランティアセンターなど人と人を繋げるデータを持っているところが学校と繋がっていけるともう少し繋がりが出てくるのかなと思います。それぞれで動いていると情報がバラバラになって繋がりにくいですが、社会教育の場にいる者がそこを繋げる活動が出来ればいいのかと思います。

これから各地域の会議が増えていく時期だと思いますが、そこで学校のことに関する項目が入るとより良いなと思いながら聞いておりました。ここにいらっしゃる方は既に地域と繋がって活動をされている方が多いと思いますが、その活動をより深めていただくとともに、その和を少しずつ広げていくことができればいいなと思います。ありがとうございました。